

## 7. <sup>なに</sup>何げないくらしの中の1番

### 【電話中継所】

- ①電話には〔 〕をつかって通話するタイプと〔 〕をつかって通話するタイプの大きく2種類<sup>しゅるい</sup>あります。
- ②〔 〕年に、〔 〕ケーブルという専用<sup>せんよう</sup>の〔 〕をつかって〔 〕と〔 〕間に日本初の〔 〕電話<sup>かいつう</sup>を開通させました。
- ③日本初の電話の仕組みは、話した声<sup>こゑ</sup>が、〔 〕の〔 〕に変えられて、この信号<sup>しんごう</sup>が、〔 〕を伝わって〔 〕に届<sup>とど</sup>きます。
- ④信号<sup>しんごう</sup>はケーブルを伝わっているうちに、だんだんと〔 〕しまいます。その対策<sup>たいさく</sup>に設置<sup>せっち</sup>されたのが〔 〕所と、〔 〕櫓<sup>やぐら</sup>です。これは、信号<sup>しんごう</sup>が弱らないように、〔 〕所<sup>じよ</sup>で〔 〕信号<sup>しんごう</sup>を整<sup>ととの</sup>えて、さらにローディング櫓<sup>やぐら</sup>に設置<sup>せっち</sup>された〔 〕という装置<sup>そうち</sup>を通して音声<sup>おんせい</sup>が〔 〕ならないようにしました。
- ⑤日本で1番初<sup>はじ</sup>めにつくられた中継所<sup>ちゅうけいじよ</sup>は、〔 〕年に、市内の〔 〕につくられた電話中継所<sup>ちゅうけいじよ</sup>です。東京<sup>とうきょう</sup>と大阪<sup>おおさか</sup>の間を、〔 〕km間隔<sup>かんかく</sup>で〔 〕か所<sup>しょ</sup>設置<sup>せっち</sup>されてたうちのひとつです。



### 〈ローディング櫓〉

- ①ローディング櫓<sup>やぐら</sup>は、電話中継所<sup>ちゅうけいじよ</sup>の間に〔 〕メートル間隔<sup>かんかく</sup>で建てられました。
- ②ローディング櫓<sup>やぐら</sup>は、現在<sup>げんざい</sup>、〔 〕町と〔 〕町野尻<sup>のじり</sup>の2か所<sup>しょ</sup>に残<sup>のこ</sup>っています。

### 【喫茶オオタ】

- ①亀山市<sup>かめやま</sup>に1番さいしょに喫茶店<sup>きっさてん</sup>ができたのは、昭和〔 〕年頃<sup>ごころ</sup>で、亀山駅<sup>かめやまえき</sup>近くにオープンした〔 〕というお店<sup>みせ</sup>です。
- ②喫茶オオタは、〔 〕という、お酒<sup>さけ</sup>を出さない〔 〕な喫茶店<sup>きっさてん</sup>です。当時<sup>たぎ</sup>、夜になるとお酒<sup>さけ</sup>を出<sup>だ</sup>す〔 〕と呼ば<sup>よ</sup>ばれる喫茶店<sup>きっさてん</sup>もありました。

〈マッチ〉

①むかしは、喫茶店きっさてんに行くと、お店の〔 〕や〔 〕を書いたマッチかならが必ず置かれていて、店内つかで使ったり、もらって帰ることができました。

【新町座しんまちざ】

①新町座しんまちざは、現在の〔 〕げんざい 3丁目ちようめで、むかしは〔 〕よと呼ばれていた場所ばしょに建てられたので「新町座しんまちざ」といいます。

②新町座しんまちざの社長しゃちょうは、〔 〕という人で、この人は〔 〕もつとめた人です。

③オープンしたのは、〔 〕年12月で、さいしょは〔 〕などを上演じやうえんする〔 〕じよう場としてスタートしました。

④新町座しんまちざは、〔 〕年えいがかんに映画館えいがかんにきりかえました。この年に〔 〕もオープンしますが、新町座しんまちざでは、それまでも、時々映画えいがは上映じやうえいしていたようで、そういう意味いみでは、1番さいしょの〔 〕です。

〈新町座しんまちざの外観がいかん〉

①新町座しんまちざは、当時としてはおしゃれな〔 〕たてものの建物たてものでした。

〈名字みょうじ〉

①亀山かめやまし市民しんみんに多い名字なづなをしらべたら次つぎぎのようになりました。ただし、今回は、漢かん字じではなく読み方よみかたを基き準じゆんにしらべました。

亀山かめやまし市しに多い名字みょうじベスト3

順位 <small>じゆんい</small>	名字	人数
1番		人
2番		人
3番		人

てんじ かん 展示てんじをみて感じたことを書きましょう。